

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム ひまわりの家

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 20年 2月 10日

記録者氏名 山岡 さゆり

記録年月日 平成 20年 2月 18日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の作成までには至っていないが、地域との交流については19年度のホーム内の目標にあげており、地域の理美容院へ行ったり、横内小学校との交流を求めて、学校に挨拶などに行き、学校からも訪問があり、交流の機会を増やしている。	○	近所とのふれあい、学校や保育園などの訪問、散歩コースを通学路や地区の公園などにも範囲を広げていき、事業所独自の理念をあげ取組んでいく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で毎月1回定期的な職員の勉強会を行い、理念にそった入居者のケアができていかなどについて、話し合っている。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に家族全員参加してもらおうようにしており、認知症の勉強会やホームの取り組みや行事の報告、年度の目標などを報告し、意見などを聞くようにしている。	○	
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に挨拶をするようにこころがけている。玄関に花を植えたり、畑を作ったりして気軽に出入りできるように努めている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、地区の行事（夏祭り、敬老会等）に参加している。入居者の散髪は地域の理美容室に通っている。毎月近所の喫茶店に行ったり、百歳体操に場所を提供し、入居者、職員と一緒に参加している。また、体操の後はお茶を一緒にのんだり、音楽療法のクラブと一緒に参加している。	○	今後は通学路などの散歩や掃除をしたり、学校の校庭で児童たちの遊んでいる姿などを見学して、交流をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場において、地区会長さんや民生委員さんの取り組みなどの報告を聞くようにしており、その中で協力できることがないか話あっている。	○	近所の清掃活動に参加する予定をしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することによって、サービスの見直しや、外部からの意見などについて職員で話あって改善できるように取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族全員参加してもらおうようにしているが、その中で利用者の状況、ホームの取り組み、目標、行事の報告などを行っているが、家族からの意見がほとんど聞かれない。	○	家族など参加者から意見がしやすいように、会議の在り方を検討する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外はあまり行き来する機会がないが、市町村主催の研修などには参加できている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所の権利擁護の勉強会に参加しており、必要に応じて活用できている。	○	利用者の多くは判断力が十分でないといわれるが、日用品の買い物をしたり、医療機関に受診したり、生活の様々な場面で意思決定をする機会があるので、今度も尊重していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員一人ひとりが絶対してはならないと認識できている。行っていない。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ゆっくり時間をとって家族・入居者に説明をしている。また、家族や本人からの要望を聞き、安心してもらえるように対応できている。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なんでも相談ボックスを1階2階の2箇所に用意したり、苦情相談窓口を示している。また、家族などから要望などがあれば、職員で話し合い、すぐに対応できるようにしている。	○
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会や面会時に報告できている。金銭管理については、定期的に家族と一緒に残高確認を行っている。ひまわり通信を毎月1回発行している。また、2ヶ月に1回文書で担当職員から家族に入居者の状態を報告している。	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を明確にしており、1階玄関と2階寮母室前にご意見箱を用意しており、家族会や面会時などにも積極的に声をかけて意見を聞くように働きかけて、体制づくりができています。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営会・レセ報告会などでその都度意見など聞ける場を設けている。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて勤務調整ができています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は最小限におさえている。移動などがあった場合でも、グループホームについてや、現在の入居者の状態を十分説明し、利用者のダメージを事前に防げるようにしている。	○	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させたり、事業所で行っている勉強会などに参加させている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ連絡会や外部の研修会などに参加し、意見交換など行っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所はオープンになっているが、冷暖房の設置、ソファでの寛ぎができるようになっている。職員同士が親睦できるように席をもうけている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会を開いたり、分からないところなどがあればいつでも聞く姿勢に努めている。相談などがあったり、困っている様子があれば個別で指導したり、相談にのっている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みに来られた家族に対しては、施設内を十分に見学してもらったり、時間をとって質問に応じたり、現在の様子などを伺っている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時において、家族や親族からその人の生活史の知っている限り聞けるようにしたり、家族が気軽に相談できる雰囲気を作っている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しを聞き、必要に応じた事業所の紹介をしたり、相談を受ける対応ができています。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、入居者と一緒にお茶などを飲んで雰囲気を見てもらっている。家族からも不安になっていることなどの相談を受けれるように努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	報道番組や新聞を一緒に見て、お互いの感想を話したり、回想法などを取り入れて、昔の生活などについて聞かせてもらう。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会など一緒にお祝いをしたり行事などにも同行してもらい、面会時などにも、相談を受けやすい雰囲気を作っている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や、行事などで家族と一緒に外出したり、本人や家族からの希望により外出、外泊することでよい関係が築けている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所や故郷訪問をして、関係が途切れないようにしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士は声を掛け合って自主的に役割をもってくれている。自主的にできない入居者は、生活の中で出番や役割分担ができるように対応できている。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設以外でも見かけたときは積極的に挨拶したり、年賀状などの交換をして交流を図っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしたいかを重要視して、その人らしい暮らしができるように努めている。無理強いせず、本人の希望を聞くようにしている。	○
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員によって把握できていない情報が異なっている。情報が共有できるように個別ノートなどを作り利用している。	○ 生活暦や今の状況がもっとわかるような個別ノートの工夫を考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りを徹底し、その日の一人ひとりの状態の把握ができています。	○ 毎日の少しの変化の見極めができ、申し送り時、気付きなど細かい部分を申し送るように気をつけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	全職員の気付いたことや、特記などがあるときは家族を交えてカンファレンスなどで話し合いができています。介護計画書は誰がみてもわかりやすい言葉を使用している。	○ 一人ひとりの入居者について職員全員でアセスメントをとるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時のカンファレンスは3ヶ月に1回行っているが、それ以外にも、特記があった場合はその都度行っている。評価についても1ヶ月ごとに行い、必要に応じて話し合いができています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいて記録ができています。特記事項など具体的に記入するようにしています。また、個別ノートを作り日々の生活の中で気づきに目し、その人らしさが分かるようにしています。	○	個別ノートを作っているが、主に連絡ノート傾向になっているため、その人らしさが分かるようなノートになるように検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所と連携をとりながら、必要に応じて支援できている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア・民生委員さんと定期的に交流できしており、各行事に参加してもらっている。また、消防署・警察などの協力も得られるようにしている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて、施設長や地域密着連携相談室と連携をとっている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を行うことで日ごろから地域との意見交換の場となっており、必要に応じて地域包括支援センターと協働できている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期だからといって、ただ医療施設主体で振り回されるのではなく、あくまでも主体はグループホームであるという考えをもって、今後、検討も必要と思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族を含めてケア関係者と十分な説明と話し合いをする時間を作って、環境や暮らし方の変化による、ダメージを食い止められるように努力している。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ノートを作成しており、その中で気付きを多く書くようにしているが、一部プライバシーを損ねるような書き方をしていることもある。	○	気付いていない職員に分かってもらうために書いたものであって、個人に関しては特別な想いがあつたものでない。今後十分に気をつけていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	2つに1つを選択できるようにしたり、質問に対しても、本人が答えられるようにゆっくり待つことを大事にしている。同時に複数の質問などしないように心がけている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態を把握して、今日は「どうしたいのか」などの希望を聞きながら、入居者のペースに合わせて対応ができています。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	同じ洋服を続けて着ていることがないように、気をつけている。洋服に合わせて帽子をかぶったり、スカーフをつけたり、好みに合わせている。外出時にはお化粧品をして、おしゃれを楽しめるようにしている。地域の行きつけの理・美容院に通っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	役割予定表を作っており、入居者も当番であることを自覚できるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	雰囲気を変えてテラスで飲み会を行ったり、月1回程度ににぎり寿司をとって食事がマンネリ化しないように工夫している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	尿量の多い入居者には細やかな声かけを行うことによって、リハビリパンツから安心パンツになった。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を管理できる入居者には、本人に所持してもらい買い物時では自由に支払ってもらっている。その他の入居者には、買い物時自分で買った物は職員と共に支払うことで生活感が保てるように支援している。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食やショッピング、ドライブなど本人の希望に合わせて計画を立て、気分転換ができるようにしている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が以前住んでいた土地への故郷訪問や、地元の祭りなど家族の協力のもとで、定期的に行っている。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週1回の絵画教室で仕上がった絵はがきを家族や、友人に定期的を送付して、手紙やはがきのやり取りができている。電話は本人の希望により、いつでも使用できるように支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	2ヶ月に1回家族会の連絡を始め、年間行事に参加してもらうように家族、友人などに案内している。	---	週1回の百歳体操の場を提供しており、地域のメンバーとも一緒にお茶を飲んだり、音楽クラブに参加できるようにして、馴染みの関係が気付けるように工夫している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしてはいけないことを、職員全員が認識しており、不穏状態のある入居者に対しては、個別に時間を作り、行動を共にすることで、落ち着けるように対応し、拘束のないケアに取り組んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも気軽に入出りができるように、入居者の安全を迫りながら自由な暮らしを支える取り組みをしている。職員も施錠はいけないことが理解できている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室するときは必ずノックをしたり、声をかけて入るようにしている。その時間帯に応じて居残り責任者を決めて対応し、安全に努めている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使用したものはその都度元の位置に戻すようにしており、特に危険なものは、目の届かない場所に保管し管理している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒事故があった場合は、事故検討会を開き対応策を話し合っている。危険に対する予知訓練を行い、事故防止に取り組んでいる。食卓には入居者の状態を把握して、食べ物以外は置かない様になっている。	○	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応方法などを事業者内外の研修会や勉強会に参加して知識はあるが、緊急時落ち着いてできるか不安がある。	○	研修会や勉強会以外でもホームの職員同士で緊急時の対応の仕方を勉強して、日ごろから訓練する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て併設施設と合同で定期的に避難訓練を行っている。また、ホーム内では地震発生時の非難方法などについて入居者に説明できている。運営推進会議で地区の取り組みの報告を聞いている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居の際に、家族・本人を含めて身体面や環境面などにリスク面をどのように対応していくか、よく話し合っている。また、入居中に状態の変化があれば、その都度対応策を検討している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の状態を観察している。体調が悪い時、看護師に相談し、すみやかに医療機関を受診している。1週間に1度定期的に併設医療機関を受診し、主治医の指示をまもっている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し一人ひとりに手わたし、また必要に応じて介助にて投薬を行っている。職員は薬の副作用など承知しており、内容については確認できるように個人別にファイルし、看護師にいつでも相談できるようにしている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを記録して経過観察している。食事にも工夫し、繊維の多い野菜や乳製品を取り入れている。また、水分補給には十分気をつけて体操・散歩なども毎日行い便秘予防に努めている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア、義歯の消毒などの介助をおこなっている。	○	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとに調理を行っている。水分補給についても一人ひとりにあった摂取量を決めてお茶以外にも、コーヒーや牛乳などがいつでも飲めるようにしている。入浴後や夜間などにも水分を摂っている。毎月の体重測定を行うことによって状態の把握ができています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各マニュアルを作成している。インフルエンザ予防接種は毎年全員が摂取している。手洗いのマニュアルを洗面所ごとに貼っている。手洗いやうがいなど習慣となっており、食事前や外から戻ったときなどに励行できている。室内の手摺や床など毎日掃除ができています。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や冷蔵庫は毎回掃除をして清潔を保っている。調理用具は必要に応じてキッチンハイター消毒を行い、食器類に関しても乾燥機にかけて衛生管理に勤めている。食材に関しては、賞味期限のチェックをしている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの前には畑をつくっており、入居者と家族がいつでも共同作業できるようにしている。テラスには洗濯物を干したり、四季折々に楽しめるように花を植えたり、干し柿や干し大根などを吊るして、家庭的雰囲気ができるように工夫している。人を見かけたら挨拶をしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が気持ちよく入浴できるように、入浴剤を入れて温泉気分を味わってもらっている。室内の模様替えも時々行い、清潔を心がけて過ごしやすいように取り組んでいる。ホール内が静か過ぎないように、適時に音楽を流している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	衝立やソファを置き、入居者が好きな場所に座れるように確保できている。2階にも談話室を開放しており、いつでも気軽に使用できるようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを室内に置いたり、好きな写真や趣味で作った作品などを飾って落ち着いて過ごせるように工夫している。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除を徹底し、トイレや浴室の排水溝を洗浄している。汚物については新聞紙でくるみ臭いの防止に努めている。また、室内の換気・温度調整はこまめに行っている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は不要な段差がなく廊下や階段には手摺を取り付け、階段には足元灯を設置している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりが残された力が自然に発揮できるように、アセスメントや日々のかかわりの中で、入居者個々のできること、でないことの見極めて、お膳立てをして、せかさずに見守り、さりげなくサポートできるようにしている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの周囲には花を植えたり畑を作って自由に手入れができるようにしている。天候の良い日はベランダで体操や日光浴をしたり、歌を唄ったり、ビアホールなどを行い四季折々に楽しみの場所となっている。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりの保たれている能力に注目して生活の中に、役割・出番をつくり、生活に役立つという感覚が自信につながり、当たり前の生活を当たり前で過ごすことができ自信につながるように支援している。